

# ビジネス フォーカス

【中古自動車】

【拡大する輸出市場】

度と比べると20・5%の大幅な増加だ。

日本からの中古車は車検制度によって定期的に点検・整備されている上、走行距離も短く人氣が高い。新車と同様に円安も市場拡大の追い風となっている。最大の輸入国はロシアで、以下ミャンマー、アラブ首長国連邦、ニュージーランド、チリと続いている。輸出先は基本的に右ハンドル国が中心となる。

世界の自動車市場は、新興国が成長を主導する構造となっている。日本の自動車メーカーが今年3月期決算で軒並み好業績となったのは、消費税増税前の駆け込み需要や円安による輸出の好調と並んで、新興国での市場拡大も要因となっている。

ただ新興国の所得水準では、新車を購入できる層ばかりではなく、中古車の需要も発生する。日本からも多くの中古車が輸出されており、13年度の中古車輸出台数は137万台と2年連続で100万台を突破した。前年

ロシアは左ハンドル国だが、極東地区を走っている車の大部分は、日本からの右ハンドルの中古車が占めている。アラブ首長国連邦は中継国となっており、周辺国やアフリカへ再輸出されている。ミャンマーでは、年式が古く故障が多い車両の入れ替えを狙って11年に輸入規制が緩和され、日本からの中古車輸入が一気に拡大している。

その日本からの中古車輸出は、海外から物資を運んできた船が、日本国内では価値のつかない車を帰りの便に積み込んだ

のが始まりとされる。日本で商品価値がない中古車も、世界ではそれを必要とする国が存在しており、現地では重要な交通手段として再利用されている。

低年式車の輸入は環境負荷を増大させると懸念する声があるが、交通インフラが発達していない国では市民の生活の足となっているケースも多い。

加えて日本からの中古車が普及し、年数が経過するにつれ、補修需要が発生する。新品の交換部品は高価なので、日本から中古部品を輸出するビジネスが広がりをみせている。この日本の中古車や中古部品に対する旺盛な需要を支えているのは、ひとえに日本車の品質への高い評価である。

世界全体で見ると右ハンドル国は少数で、全体の3分の1程度とされる。その中で右ハンドルの中古車を大量かつコンスタントに供給できるのは日本ぐらいな

ので、この分野では絶対的な競争力を有している。

急激に輸入が増大したミャンマーでも千人当たりの自動車保有台数は7台程度で、まだまだ市場拡大の余地がある。日本からの中古車輸出は、今後も新興国を中心に底堅い需要が続くものと考えられる。

(インダストリアルテクノロジーユニット 自動車産業グループ 関口 太二)

輸出抹消登録台数

